

# 京論壇2009企画書

※2009年9月1日現在

## 目次

代表挨拶	… 2
京論壇の理念	… 3
京論壇の特徴	… 4
2009企画概要	… 5
本年度スケジュール	… 6
京論壇の議論	… 7
過去実績・協賛団体	… 8・9
京論壇とは	… 10
付・収支計画表 /本年度 スケジュール詳細	



# 代表挨拶

京論壇2009代表 羅俊明(農学生命科学研究科)



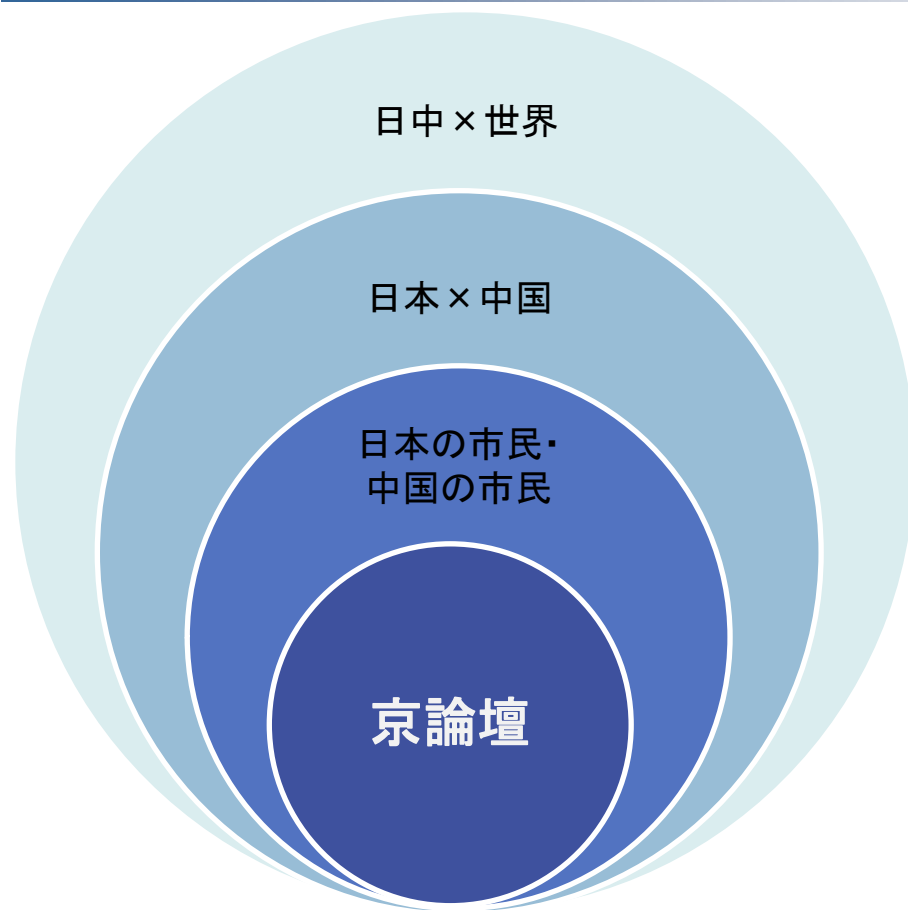
京論壇は、東京大学・北京大学の学生による自由な討論を通じて日中間の相互理解に貢献することを目的とする議論フォーラムです。2006年以来、京論壇は歴史認識のような機微に触れる問題も含めて、両大学の学生が自由な立場で真剣に議論する場として発展して参りました。

本年も、北京・東京で各1週間、寝食を共にして徹底した議論やフィールドワークを行います。また、議論の成果やその場で得た「気づき」や思いを出版や報告会等を通じて社会に発信して参ります。

近年友好的な文脈で語られることの多い日中関係ですが、日中両国の間にはさまざまな側面で未だ根強い不信が存在します。私たち京論壇は、学生の自由な立場からその原因を分析し、問題解決への提言を行うことで、日中の“共創未来”を実現したいと考えます。各人の持てる知識や経験・問題意識を最大限に活用することで、この目標を達成していく所存です。

上記の志を実現するためには、支援者の皆様のお力添えが不可欠です。何卒ご支援のほどよろしくお願い致します。

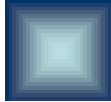
## 共創未来 ~Create the Future Together~



京論壇で一人一人がつむぐ**個人間**の信頼と協働が、**社会発信**を通じて**日中両国の市民**に広がり、やがて**日中関係**、**世界**を変えていく。これが「京論壇」のビジョンであり、目指すところです。

理念を実現するために、毎年の京論壇開催はもちろん、**商業出版**やOBOG・外部との交流窓口である**京論塾**の設置(スライド4)など、活発な活動を続けています。

# 京論壇の特徴



## 京論壇の特徴

両国を代表する大学の学部生・院生が構成

東大×北京大

社会発信

日中相互訪問

東京、北京を相互に訪問することで、**相手国へのより深い相互理解**を目指します。他団体にはない京論壇ならではの**特徴**です。

ネットワーク

京論塾

OBと現役の交流窓口、外部への参加窓口として開かれた月1度の討論会

豊富な人的ネットワークを活かした産官学に跨るFWと講義



メディア取材、web、出版等。とくに出版の実績として2008年、明石書店様からの**商業出版**があげられます

# 京論壇2009企画概要

## 開催日程

中国会期 2009年 9月15日(火)～20日(日)  
日本会期 2009年 9月27日(日)～10月4日(日)

## 場所

中国会期 北京大学キャンパス  
日本会期 東京大学本郷・駒場キャンパス

## 人員

北京大学生・大学院生 参加者12名・スタッフ15名(北大代表:張 瀟)  
東京大学生・大学院生 参加者12名・スタッフ14名(東大代表:羅 俊明)

## 開催後:社会への発信

公開型の最終報告会  
メディア取材・web発信  
議論成果の出版

# 本年度のプログラム構成(東京セッション)

9月27日	28日	29日	9月30日	10月1日	2日	3日	4日
開会式	議論 ・ フィールドワーク ・ レクチャー	議論 ・ フィールドワーク	議論 ・ フィールドワーク ・ レクチャー	One Day Trip (東京観光)	議論 ・ フィールドワーク ・ レクチャー	最終発表準備	最終報告会
歓迎会							歓送会

フィールドワーク及びレクチャーに関しては、各分科会毎にプランを練っています。

昨年度の一例

歴史教育→高校での歴史教育見学、歴史問題についての映画鑑賞会、川島真教授レクチャー

ビジネス→三菱商事株式会社訪問、マネックスグループ株式会社訪問、株式会社電通PR訪問 他

食料→農林水産省訪問、株式会社ローソン訪問

軍事認識→松田康博教授レクチャー

## ■分科会と今年度の特徴

1. 日中間の不信の原因を個人レベルから再検討→「国家とアイデンティティ」分科会
2. 不信・誤解の経路を追求→「メディア」分科会
3. 不信と誤解を超えた相互理解と「協働」の実現→「東アジア」分科会

## ■分科会紹介

### 国家とアイデンティティ 分科会

日中間の様々な懸案の根底には個人・集団の記憶に根差すアイデンティティの相違や感情的対立があります。そこで当分科会は「日中国民のアイデンティティ形成過程」「歴史認識など相手国イメージを形成する要因」を分析します。

### メディア分科会

日中間に横たわる様々な問題が論じられる際、それらの問題を社会に周知させるメディアの影響は甚大です。当分科会は両国メディアの持つ構造的特徴を比較、ひとりひとりの市民のメディアへの対応の在り方を追究します。

### 東アジア分科会

東アジア域内の「労働力移動の促進」を素材に、日中がこの地域でどのように提携し共通の価値を実現できるかを探ります。「共創未来」の理念にふさわしい、新しいコンセプトの分科会です。

# 過去実績 掲載メディア(08年度)

## 京論壇2008掲載メディア

TV・ラジオ      NHKラジオ第一 (2008年9月、09年1月)

新聞・雑誌      朝日新聞 (2008年3月 埼玉版)  
朝日新聞 (2008年8月15日 社説)  
東京大学新聞 (2008年4月)  
外交フォーラム  
「赤門学友会報」(東京大学同窓会)  
東方書店新刊案内  
中国語ジャーナル紹介  
教育新聞  
沖縄タイムス

インターネット      共同通信中国語版 (2008年10月)

# 過去実績 後援・助成・協賛団体 (08年度)

## ■ ご協力企業・団体(50音順、敬称略)

イーピーエス株式会社  
株式会社ゼンショー  
株式会社ニチレイ  
株式会社ニチレイフーズ  
株式会社ビービット  
株式会社ローソン  
渋澤栄一記念財団  
ゼネラルエンジニアリング株式会社  
全日本空輸株式会社(ANA)  
都市総研インベストバンク株式会社  
フューチャーアーキテクト株式会社  
マネックスグループ株式会社  
メルリンチ日本証券株式会社

## ■ ご寄付いただいた皆様

大竹美喜様  
北城恪太郎様  
渋澤健様  
濱口敏行様

多くの財団・企業・個人の方にご協力いただきました。  
ご要望によりお名前を伏せております方もいらっしゃいます。  
どうぞご了承くださいます。

# 京論壇とは

## 企画背景

2005年4月。中国では反日デモが巻き起こり、日本でも中国に対するステレオタイプなイメージが横溢していました。京論壇はこうした当時の日中関係に対する**危機感と問題意識**から、東京大学と北京大学の学生有志の手によって生まれました。以来、日中間に「真の相互理解と深い信頼醸成」を実現するためには何が必要か、議論を交わしてきました。

多少の摩擦が生じて、容易に冷却化しないような信頼関係で結ばれた日中関係を、市民レベルで確立したい。**相手国を相互訪問し、腹を割った議論を行いながら二週間を過ごす京論壇だからこそ生まれる信頼関係**があるはず。この未来への投資が、将来の日中関係を変える大きな潮流の契機になると私たちは信じています。

## 活動内容

「京論壇」は東京大学と北京大学から選抜された学生が各分科会に分かれ、毎年度様々なテーマについて議論を行う討論企画です。プログラムでは、日中両国それぞれ一週間の相互訪問の中でフィールドワーク、レクチャーや真剣な議論を行い、その成果を最終日に社会に向けて発表します。プログラム終了後も、Web、シンポジウム開催、出版など、成果を積極的に社会へと還元していきます。